

| | |
|-------|---------------------------------|
| 研修機関 | 医療法人社団仁智会 介護老人保健施設 春日町ケアセンター |
| 研修期間 | 平成16年8月30日～9月29日 |
| 所属・氏名 | 石川県立金沢二水高等学校 羽柴 正樹 |

I 研修目的

- ・学校現場を離れ、異業種の人々と交流することで自分自身の資質向上を図り、社会人としての役割を見つめ直す機会とする。
- ・生活援助を中心とするサービスの提供の補助をし、学校現場での充実したサービスの提供の在り方を探る。
- ・人間性を高め、今後の教育観・指導観を考える。

II 研修内容

一般棟に配属され、高齢者に対しての生活援助を担当した。

1 生活援助

- ①排泄介助
- ②食事介助
- ③清拭・入浴介助
- ④フロア移動介助
- ⑤コミュニケーション
- ⑥レクリエーション
- ⑦環境整備

2 リハビリ・集団レクリエーションの見学

- ①日常のリハビリテーション
- ②音楽療法
- ③敬老の日のお茶会
- ④舞踊ショー・化粧教室・カラオケ教室・民謡教室・生花教室

3 充実したサービスを提供するためのシステム

- ①ケアプラン
- ②入所者の健康状態・適用する薬や治療法についてのきめ細かな引き継ぎ
- ③職員の協力体制
- ④挨拶・笑顔の徹底
- ⑤清潔保持の徹底

III 研修成果

1 一人ひとりに合わせたサービスの提供

私が1ヶ月研修した一般棟の入所者は、50人弱であり、ほとんど介助を必要としない人もいれば、自分だけでは食事もできない人や軽度痴呆の人など様々な人がいた。このような個性豊かな入所者一人ひとりに対して、職員の方々は、しっかりとしたケアプランを立て、一つの介助が終わるごとに記録を残し、健康状態の把握に努めている。さらに、次の担当者にきめ細かい引き継ぎを行い、的確な介助を迅速に行っている。個々の入所者に満足してもらい生活援助の難しさを体験すると同時に、学校現場でも、一人ひとりの生徒に目的意識を持たせ、常に生徒の変化を見抜き、的確な指導を迅速に行っていかなければならないことを

改めて痛感した。

2 変化を大切にしたサービスの提供

研修中に様々な集団レクリエーションが行われた。例えば音楽療法では、作業療法士・言語聴覚士等の専門職員が、季節にあった台風やオリンピックの話をしたり、軽い体操やなつかしい歌をいっしょに歌ったりしていた。入所者は、いつも以上に楽しそうに参加していた。また、ボランティアによる舞踊ショーでは、食い入るように見ている入所者が多かった。学校でも、いろいろな行事が行われているが、一つ一つの行事が有意義なものになるように常に考えていかなければならないと感じた。

3 明るくオープンな施設

職員の方々は、入所者と常に笑顔でコミュニケーションをとっており、外来者が来たときも笑顔で必ず挨拶している。入所者の家族ともコミュニケーションをとり、できるだけ情報を提供するように心がけている。挨拶の重要性と情報提供の大切さを学んだ。

4 組織の力を最大限に出す

学校現場では、よくそれぞれの教員の頑張りのベクトルが同じ方向に向いていないと言われるが、職員の方々が互いに声をかけ、誰が何をしているのかを把握し、無駄のない動きをしているのを見ると、ここにベクトルの方向をそろえるヒントがあるように思われた。

IV 今後の課題

1 充実のサービス

ケアセンター内では、入所者を利用者と呼び、利用者を第一に考えたサービスを提供するために様々な努力をしている。学校現場でも、生徒や保護者・家族を第一に考えた教育を提供しなければならないが、まだまだ不十分であることを認識した。これまで以上にその意識を常にもって努力をしていきたい。

2 感謝の気持ち

職員の人たちは、研修生や実習生に対しても、常に「ありがとうございます。」「ご苦労様です。」と声をかけることを忘れない。学ぶ立場にたつて、感謝や励ましの言葉の大切さを痛感した。生徒の立場にたつて生徒に接することを心がけていきたい。

3 一人ひとりに応じたきめ細かな指導

職員の人たちは、個性の強い利用者に対しても、コミュニケーションをしっかりととり、データの蓄積により、個々に応じたきめ細かな介護をされているが、学校でも、よりいっそう個々の生徒に応じたきめ細かな指導ができるように、コミュニケーションを大切に、個々のデータの蓄積をしっかりとしていきたい。

4 連携の大切さ

ケアセンター内には、医師・看護師・介護職員・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護支援専門員・支援相談員・社会福祉士など多くの職員の方がいるが、必ず声をかけあって、互いがどんな仕事をしているのかを理解し合い、無駄なく仕事をこなしている。その間に突発的な事があっても、冷静に協力して対処している。学校現場でも、校務分掌でそれぞれの役割が決まっているが、互いにどんな仕事をしているのかを理解し合い、声をかけあって、より良い教育が提供できるように努力していかなければならない。

最後になりましたが、この1ヶ月の間、様々なことを教えて下さった春日町ケアセンターの職員の皆様、心優しく接して下さった利用者の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。